

特集

- ・ ケント紙、
尾瀬の木道エコペ
ーパー キャンペ
ーン
- ・ コート紙の話
- ・ セグウェイ

ケント紙・尾瀬の木道紙キャンペーン中！



「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言
ったもので、季節は秋へと移り変わ
りました。今年はあまり残暑も厳しくは
なく、過ごしやすい秋の入りであった
と思います。

そんな中、過ぎ行く夏を惜しむか
のように一部の蚊はまだ活動中です。夏
の虫と言えば蚊です。

私は良く蚊に刺されます。なるべく
気にしないようにしていますが、やは
り痒いものは痒いですね。そこで、蚊
に刺されたときどうするのが効果的
なのか少し調べてみました。

刺されたところに「×」印に爪あと
をつけるといいと言うのをどの方も
聞かれたことがあるのではないでし
ょうか。私も良くやりますが、これは
どうやら逆効果になることが多いよ
うです。何の根拠もなしに刺激を与
えてしまうと余計に痒みを引き出し
てしまうからです。

蚊(血を吸うのはメスのみ)は吸血
の際、自分の唾液を対象の血管に注
入し、血液を凝固させにくくします。そ
の唾液に対するアレルギー反応が痒
みです。つまり私たちは自分で自分を
痒くしているとも言えます。

痒くなるのは嫌なので、では刺さ
れない方法を考えてと思います。

血液型信仰の強い日本、〇〇型が
刺されやすい、刺されにくいと言わ
れる事もありますが、残念ながらこ
れには科学的根拠がありません。

実際は、二酸化炭素排出量が多い
人、つまり新陳代謝の活発な人が刺
され易いそうですが、それを自分で
コントロールするのは不可能です。

そこで蚊を寄せ付けない工夫をし
ます。蚊は飛行能力が低いので、わ
ずかな風、扇風機やクーラー程度で
も飛行障害を起こします。でもこれ
らを長時間直接体に当てるのは体に
悪いので、やはり蚊取り線香などを
焚いておくのが一番簡単で効率的で
す。

でも刺されてしまったら？結局
は、痒み止めの薬を塗るのが一番で
す。掻き筆らない様、痒み止めパッ
チならより効果的かもしれません。

ケント紙・尾瀬の木道エコペー
パーのキャンペーン中です。夏は終わ
ってしまいましたが、キャンペーン
は秋が深まるまで続きます。この機
会をお見逃しにならないよう、改め
てお願い申し上げます。

その他、ご不明な点やご質問等ご
ざいましたら、弊社営業までお声が
け下さい。

お待ちしております。

(K & A)

スギウラ株式会社
営業部 営業一課
〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業一課
027-361-5734

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

お気付きの点や質問、
疑問などありましたら、
ご遠慮なく営業または、
下記までお問合せくだ
さい。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

コート紙の話

常日頃目にする機会の多いコート紙、今回はその話です。一般にただ「コート紙」とだけ言うと、光沢のある「グロス紙」の事を指す場合が多いです。

同じ様な薬品を塗っているはずなのに光沢の抑えられた「マット紙」と見え方が違うのは何故か？それは後者は、仕上げの段階で表面が凸凹にされているからです。その凸凹は勿論目には見えませんが、これにより紙の表面に当たった光は乱反射され、私たちの目に届く前に四散されます。そのため光沢が無いように見えます。

それに対しグロス紙では表面がツルツルになっているため、照り返し易くなり、結果艶があるように見えるのです。もう少し補足すると、光の一部は紙の中にも入り込み、そこでも拡散したりします。マット紙は内部でも乱反射が多いので、より光沢が抑えられるわけです。

そしてコート紙にもグレードがあります。上質紙ベースのそれをコート紙Aと呼びますが、表面に塗布する薬品

の量によってA0～A3までランク付けがされます。一番良く使われるA2コート（例えば三菱製紙のパールコートN等）では、両面で20g/m²前後の薬品が塗られます。A1であるアート紙ではその倍の40g前後の薬品が使われます。軽量コート紙であるA3コートでは約15gと、その名の通り薬品も抑え気味です。

ツヤのある表面は正反射光が強くなり、マット紙は乱反射光が強くなります。正反射光が強くなると、印刷物の色そのものに光源の色が強くなり混じってくるため、本来の色調と異なって見えてきます。

また同じ光沢のコート紙でも、画線部の光沢はインキの色の濃い方がより強く感じられますが、これは心理的光沢感（客観的光沢感）と言われるものです。

以上のように、光沢と色とは一見関係ないように見えて、その実、密接なつながりがあるものなのです。

セグウェイ

少し前の話になってしまいますが、今年5月に行われたシタラフェアで目を引いたのが「セグウェイ」です。ご存知の方も多いと思いますが、二つの車輪に取っ手が付いただけの乗り物で、ジャイロ等による高度な姿勢制御により体重移動のみで走り回るといふ、これまた未来感いっぱいマシンです。

日本での代理店であるキャノンのブースで試乗車があったので早速乗ってみました。アクセルやブレーキが無いので最初は少々戸惑いますが、少し乗るともう大丈夫。体重移動のみで動くので、スキーを滑る感覚と似ています。最高速は20km/hまで出るそうなので、ちょっとした移動には充分すぎる速度です（試乗車は最高10km/hに調整）。

開発された米本国内での利用は、広い工場内などを移動するのに使われているようです。日本でも百万円ほどで買えますが、対応する法律が無いので公道で走れない上に、販売は法人向けのみです。

ゴルフバッグを積めるタイプもあります。勿論ゴルフ場で使うための仕様ですが、本体重量が50kgを超える上、乗用カートが一般的な日本では、これまた使い道がなさそうです。

早く法整備が進んで、日本の公道でも走れるようになったら良いと思いました。でもブレーキ等が強制装備だったら、ちょっと興奮めかもしれません。